

## 多様な価値観とリスク意識の構造分析



東京大学社会科学研究所  
佐藤 慶一

## 内容

1. 研究の背景
2. 構造分析の試行

## 背景



<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>

## SSJデータアーカイブ



■実績(1998-2007)

公開データセット数: 1171  
利用申請研究者数: 5437  
提供データセット数: 10312  
DB検索件数: 212945  
発表書籍・論文数: 367

内閣府、経済産業省、日本政策金融公庫総合研究所、高齢・障害者雇用支援機構、中小企業基盤整備機構、社会経済生産性本部、連合総合生活開発研究所、早稲田大学生活協同組合連合会、社会安全研究所財団、野村総合研究所、リクルートワークス研究所、富士経済研究所、第一生命経済研究所、SSM調査研究会、選挙とモラルセンター研究会、日本家族社会学会、シンクイ基礎研究所、東京社会科学研究センター、エンタテインメントビジネス総合研究所、朝日新聞社、大阪商業大学、三宅一樹(神戸大学名誉教授)、天野郁夫(東京大学名誉教授)、樋口幸(中央大学)、シメツカ&パートナーズ(株)研究所、香川直喜(熊本大学)、宇佐野機構・組織及び14人の研究者(代表)がその保有データを当センターに委託

2006年9月 日本統計学会統計活動賞(日本統計学会)

電通総研(現電通)が世界価値観調査を委託

## 世界価値観調査とは？

- 米国ミシガン大学社会調査研究所のロナルド・イングルハート教授が中心となって世界各国の研究機関に呼びかけて実現した異文化間の社会的変化を追跡しようとする世界80ヶ国以上が参加してる5年に1度の調査
- 各国ごとに全国の18歳以上の男女合計1,000サンプル程度の回収を基本とした個人対象の同一の調査票に基づく意識調査で、政治、経済、宗教、ジェンダー、家族規範等に関する価値観について190項目を設問している。

## 社会学における2つのリスクの捉え方

- ウルリヒ・ベック(1944ー)
  - 1986年「危険社会」でリスク社会の到来をセンセーショナルに指摘
- アンソニー・ギデンズ(1938ー)
  - プレア政権のプレーンとして、社会民主主義の限界を乗り越える「第三の道」を提唱。
  - 「再帰的近代化」を軸に、リスク、グローバリゼーションなどを分析
  - 富を生産する産業社会がもたらす負の側面としてのリスク
- ニクラス・ルーマン(1927ー98)
  - 1984年、社会システム理論
  - 近代化が進むとともに、人間活動の自由度が高まった。自由な選択が、必ずしも期待通りの結果をもたらさないケースも多く、選択の自由に伴うリスク意識が高まったことを指摘。
  - 選択の自由がもたらすリスク意識の高まり

## 構造分析の試行



## 分析に用いるリスク意識

- 因子分析より抽出
  - 安全な住環境への意識 (V82,84,87,88,89)
  - 生活リスクへの意識 (V81,85,86)
  - 地域環境リスク認識 (V108-110)
  - 世界環境リスク認識 (V111-113)
- 合成変数
  - 防衛・戦争への意識 (V69-70, V75)

### V82,86

[GRID]  
Here are some brief descriptions of people. Please indicate for each description whether that person is very much like you, like you, somewhat like you, not like you, or not at all like you.

	Very much like me	Like me	Somewhat like me	A little like me	Not like me	Not at all like me
V82. Living in secure surroundings is important to this person: to avoid anything that might be dangerous.	1	2	3	4	5	6
V86. Adventure and taking risks are important to this person: to have an exciting life.	1	2	3	4	5	6

問32 人によって大切なことは異なります。次のような人がいるとすれば、それぞれのあり方について、あなたはどの程度当てはまりますか。(1つずつ○印)

	当てはまる 非常に	当てはまる	当てはまる まあ	当てはまる 少し	当てはまる ない	全く当ては まらない	わからない
C 安全な環境に住むこと、危険なことはすべて避けることが大切な人	1 25%	2 32%	3 19%	4 11%	5 6%	6 2%	9
G 冒険し、リスクを冒すこと、刺激のある生活が大切な人	1 8%	2 13%	3 16%	4 16%	5 24%	6 16%	9

## 地域環境リスク意識

問40 以下のような多くの地域社会が直面している環境問題についてお聞きします。それぞれについて、ご自分の地域社会にとってどの程度深刻であると思うかをお答えください。(1つずつ○印)

	非常に深刻	やや深刻	あまり深刻ではない	全く深刻ではない	わからない
A) 水質汚染 →	1	2	3	4	9
B) 大気汚染 →	1	2	3	4	9
C) 下水、衛生問題 →	1	2	3	4	9

4割 2割 1.5割 1.5割

## 世界環境リスク意識

問41 今度は世界全体の環境問題についてお聞きします。次の問題のそれぞれについて、世界全体にとってどの程度深刻であると思うかをお答えください。(1つずつ○印)

	非常に深刻	やや深刻	あまり深刻ではない	全く深刻ではない	わからない
A) 温暖化、温室効果 →	1	2	3	4	9
B) 動物や植物の種類、生物の多様性が失われること →	1	2	3	4	9
C) 河川、湖、海洋の汚染 →	1	2	3	4	9

4割 4割 1割 1割

## 防衛・戦争への意識

問27 (a) わが国の向う10年間の国家目標をどう設定したらよいかについて、よく議論されます。次に、いろいろな人が最も重視する目標がいくつかあげられています。あなたはこれらの中で何が最も重要だと思いますか。(下の「最も重要」の欄に1つだけ○印)

(b) では、次に重要だと考えるのはどれですか。(下の「二番目に重要」の欄に1つだけ○印)

	最も重要	二番目に重要
・高い経済成長を維持すること	1	1
・十分強い防衛力を持つこと	2	2
・人々が職場や地域社会での物の決め方にもっと発言できるようにすること	3	3
・われわれの都市や農村をもっと楽しくするように努力すること	4	4
わからない	9	9

問30 もう二度と戦争はあって欲しくないというのがわれわれすべての願いですが、もし假にそういう事柄になったら、あなたは進んでわが国のために戦いますか。(1つだけ○印)

1 はい  
2 いいえ  
9 わからない

「防衛力を持つこと」最も重要を2番目に重要を1その他を0とした変数を合成

「はい」を1「いいえ」を0とした変数を合成

## 説明に用いる価値観等

- 既往社会学理論
  - 「科学技術」観(V91, 123)
  - 「選択の自由」観(V46, 122)
- 定量的指標
  - 社会階層(V238, V252, V253)
  - 教育レベル, 社会階層, 世帯収入

## 科学技術観

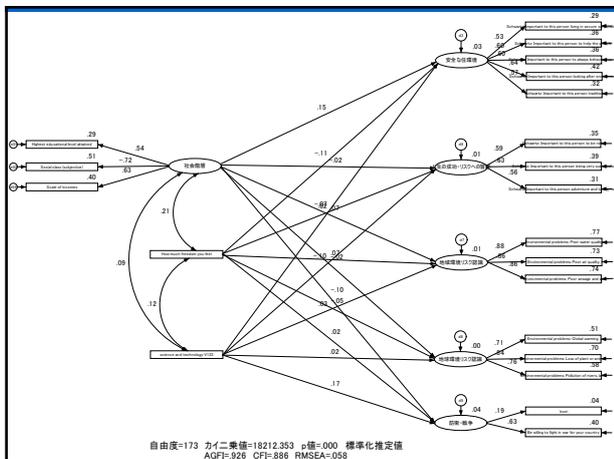
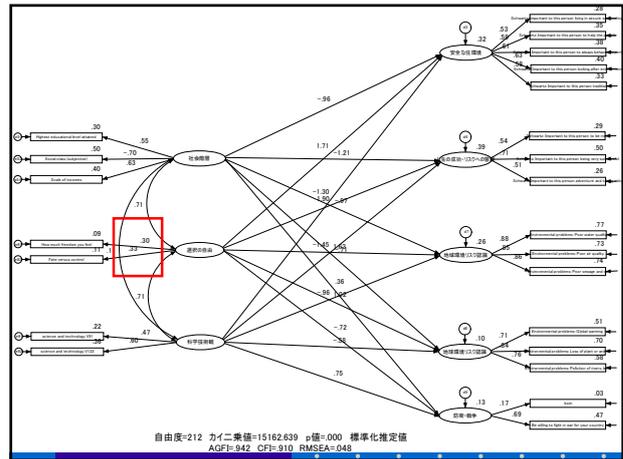
問46 一般的に、科学・技術によって、世界はより良くなっているでしょうか、悪くなっているでしょうか。1が「世界はより悪くなっている」、10が「世界はより良くなっている」を示すとします。1から10までの数字で当てはまるものを1つお答え下さい。(1つだけ○印)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
 [世界はより悪くなっている] [世界はより良くなっている]  
 99 わからない

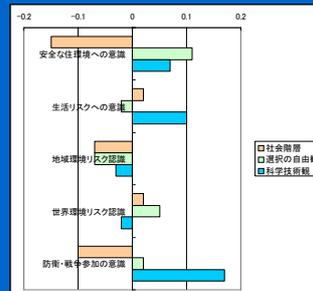
## 「選択の自由」観

問11 人生は自分の思い通りに動かすことができるという人もいれば、どんなにやってみても自分の人生は変えられないという人もいます。あなたは、ご自分の人生をどの程度自由に動かすことができると思いますか。1から10までの数字で当てはまるものをお答え下さい。(1つだけ○印)

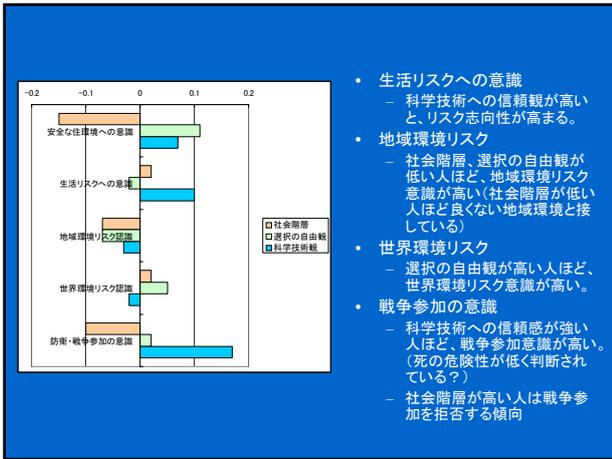
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
 (人生は全く自由にならない) (人生は全く自由になる)  
 99 わからない



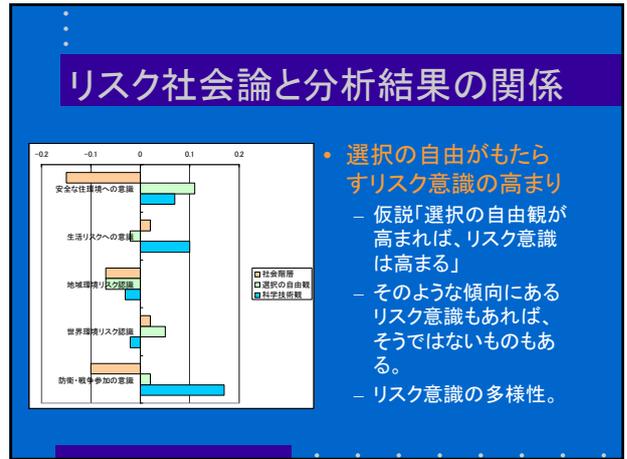
	社会階層	選択の自由観	科学技術観	数値大きいと
安全な住環境への意識	-0.15	0.11	0.07	高い
生活リスクへの意識	0.02	-0.02	0.1	高い
地域環境リスク認識	-0.07	-0.07	-0.03	高い
世界環境リスク認識	0.02	0.05	-0.02	高い
防衛・戦争参加の意識	-0.1	0.02	0.17	高い
数値が大きいと	高い	高い	良い印象	



- リスク意識は極めて多様。
- 安全な住環境への意識
  - 社会階層が高くなると安全な住環境への意識は低くなる(いい家に住んでから)
  - 選択の自由観が高まると、安全な住環境への意識が高まる
  - 科学技術への信頼観が高いと、安全な住環境への意識が高まる

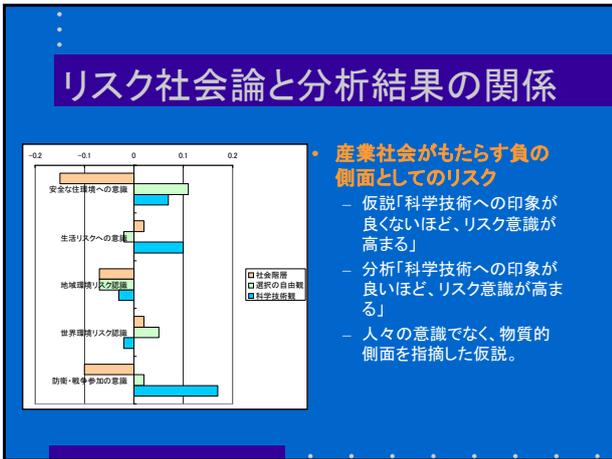


- 生活リスクへの意識
  - 科学技術への信頼観が高いと、リスク志向性が高まる。
- 地域環境リスク
  - 社会階層、選択の自由観が低い人ほど、地域環境リスク意識が高い(社会階層が低い人ほど良くない地域環境と接している)
- 世界環境リスク
  - 選択の自由観が高い人ほど、世界環境リスク意識が高い。
- 戦争参加の意識
  - 科学技術への信頼感が強い人ほど、戦争参加意識が高い。(死の危険性が低く判断されている?)
  - 社会階層が高い人は戦争参加を拒否する傾向



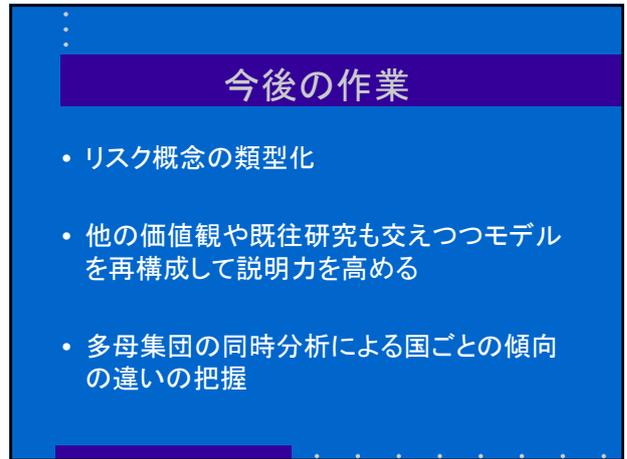
## リスク社会論と分析結果の関係

- 選択の自由がもたらすリスク意識の高まり
  - 仮説「選択の自由観が高まれば、リスク意識は高まる」
  - そのような傾向にあるリスク意識もあれば、そうではないものもある。
  - リスク意識の多様性。



## リスク社会論と分析結果の関係

- 産業社会がもたらす負の側面としてのリスク
  - 仮説「科学技術への印象が良くないほど、リスク意識が高まる」
  - 分析「科学技術への印象が良いほど、リスク意識が高まる」
  - 人々の意識でなく、物質的側面を指摘した仮説。



## 今後の作業

- リスク概念の類型化
- 他の価値観や既往研究も交えつつモデルを再構成して説明力を高める
- 多母集団の同時分析による国ごとの傾向の違いの把握